

「あら何ともなや 昨日は過ぎて 河豚汁
河豚汁や 鯛もあるのに 無分別」
松尾 芭蕉

(あらなにともなや きのはすぎて ふぐとじる)

延宝5年(1677年)松尾芭蕉34歳の時の作。

「昨日河豚汁を食べて毒を心配していたが、今朝起きて何ともなかった」と詠っています。

芭蕉はよっぽど河豚の毒が怖かったのでしょうか。

毒のない鯛をおすすめしています。

この句に対して、小林一茶が

「河豚食わぬ 奴には見せな 富士の山」

河豚を食べない人は富士の山を見る資格がないと詠っており、

小林一茶のふぐに対する熱い気持ちを感じます。

